黒鞠は年下関西弁少女に言い寄られる。

はしびろこう

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

４０代のおばさんがクソ痛いキャラで配信して、身バレして、弟子が出来て、言い寄られる話。

いもがし

セルフスピンオフ
本編はこっち
https://syosetu.org/novel/227670/

目次

一話にゃ ―― 1
二話にゃ ―― 5

一話にゃ

ｖｔｕｂｅｒそれはバーチャルな二次元のキャラを使い配信や、動画を制作する者たちの総称である。

中には清楚でいこうと思ったら途中でぶっ壊れたり、配信者ではなくお兄ちゃんの方が有名になったりとたまに散々な事になったりする者たちもいるが。それでも一人一人が活動を楽しんでいるのは間違い無いだろう。

人に笑顔と夢を届ける。そんなアイドルみたいな職業。

そしてまた…この女もその一人であった。

黒髪のおかっぱ頭にして猫耳が生えている少女、そこから聞こえる声は少し年季の入った声。低い声の女性が無理矢理高くしたような声だった。

「ほんじゃま！配信始めんにゃ～！」

・ウルセェ!!

・音量下げろババア!!

・鼓膜ないなった

・家で飼ってる犬が吠え始めました

「誰がババアにゃ!!!!お姉さんっつってんだろうがボケが!!ぶちとばすぞわれ!!」
・うわあああああああ!!
・追い討ちをかけて来るやつはお前が初めてだわ
・いい加減にしろおばさん
・ボｗｗｗｗケｗｗｗｗがｗｗｗｗｗ
「っち……まあ!そんなこんなで今日はこのゲームやってくにゃ!」
・今、舌打ちした?したよね?
・とんでもねぇ奴だ…
・おかしい…俺が知ってるＶはみんな優しいのに…
・諦めろ。このババアに何を言っても無駄だ
「ぐっ……ぐがが……!!」
とまあ、こんな散々なコメントが流れて行く彼女こそ『黒鞠コロン』というＶｔｕｂｅｒであり、登録者数は先日１００人を超えた底辺である。
憤慨する彼女は怒ったようにゲームの電源をつけてゲームをやり始めた。
やってるのは古き良き、横スクロールシューティングゲーム。
最近のゲームは彼女の目には追えなくなって来たので、今はこれに落ち着いてる。
視聴者も「懐かしい」などもコメントもあり、概ね楽しんでいるようだ。

たまに、プレイがガバると「もう歳か？」みたいなコメントが流れて来てコロンが怒るという配信がお約束である。

「クソにゃ、このゲームクソにゃ。なんでラスボスが倒せんの」

・散々ラスボス倒すヒントくれてただろ

・ＮＰＣの話をよく聞かないから…

・そこまで行くと引き返せんぞ

・また、初めからで草

「そんなん知らんにゃ、最初から言っとけにゃ」

・あ？

・喧嘩売ってんのか？

・ついにボケた？

・なんだコイツ

「あばあああああ!!もういいにゃ!!全員まとめてぶちとばす!!」

コロンは配信ソフトの設定をいじり、最初の音量に戻して盛大に大声を発した。

視聴者は全員、苦しみ悶える。本当に鼓膜の危険があるのでやめて貰いたい。

そして、この日も黒鞠コロンの配信は終わった。

配信者は薄暗い部屋の中で椅子にもたれかかり、背伸びをする。

そして、何かを左手で探してようやくお目当ての物を見つける。
箱から一本のタバコを取り出して、火をつけ、煙を肺に満たした。
これが彼女、Ｖｔｕｂｅｒ『黒鞠コロン』いや配信者『草鞠冴』４１歳の１日のルーティーンである。
「けー、好き勝手言いやがって……次はなんのゲームしようかな」
とまあ、視聴者も少ないし登録者も少ないが、それでも彼女は満足していた。
しかし…この後とんでもない事件が彼女に待ち受ける事となる。
変に有名になり、甥に身バレし、そしてＶｔｕｂｅｒの弟子ができ、年齢が弟子にバレる。
そして弟子に……
「お願いしますー!ウチー!お姉様と付き合いたいんや……!」
「……わっとにゃふぁっく????」
言い寄られる事になろうとは。
まだ彼女は知らないのであった。

二話にゃ

日が登っている。

温かい陽気に誘われて、暗い家の中から出てくる人影が一つ見えた。綺麗な黒い長髪を靡かせ、日に当たっているせいか毛先が緑色に見える。

風が心地よく吹き、彼女の髪が綺麗に靡いた。

（く～そ、あちいにゃ～）

彼女こそ草鞠冴本人である。

（クソクソ～♪　なーんで、人は働かないとイケナイの～♪）

容姿とは裏腹に心の中ではクソみてぇな事呟いて歩いている。

恐らく、通りすがりの人は最初綺麗な人だなと思うだろう。しかし彼女の本心を覗いたら最後、地獄のフルコースが待っている。

そんな地雷マシマシキャラ濃いめチョモランマ女だ。若そうな見た目してるだろ？

これでも４１歳なんだぜ。ちなみに先日、この人の甥がその被害を受けた。

そう彼女は、先日有名ｖｔｕｂｅｒに紹介され、そのおかげで今では一万人の登録者を超える、中堅ｖｔｕｂｅｒと言っても差し支えのない人だった。

ちなみに少し調子に乗っている。
黒髪におかっぱ頭の猫耳少女。語尾ににゃんをつけ、見る者全てを共感生羞恥へと追い込む地獄女。黒鞠コロン。
そして配信では昔のゲームを好むことや、昔のアイドル事情に詳しかったりと少し老いを感じさせる配信スタイルだ。
そんなこんなで草鞠は今日も今日とて自身の職場である絵画教室へと向かっていた。
彼女は絵画教室で非常勤ではあるが、講師をしている。
見た目も綺麗で教え上手なので生徒からは尊敬の眼差しで見られている。
そんな生徒の様子を見て優越感に浸るのが彼女の目的でもある。
「先生〜！　見て〜！」
女子生徒の一人が草鞠へと駆け寄り、ニコりと笑顔を見せノートを見せて来た。
「どうしたの？　あら……これ……」
ノートに描かれていたのは、おかっぱ頭の猫耳少女、どこからどう見ても黒鞠コロンの絵であった。
（やっべえ!!）
内心、冷や汗ダラダラである。
「最近ね〜！　流行ってるんだ！」

「へ～そうなの、可愛いわね」
にこやかな顔で受け答えしているが、内心胸がバクバクである草鞠。
奥歯がカチカチと震え出す。
（え!?　バレた!?　嘘だろ!?　まさか揺さぶり……!?）
ここ最近似たようなことがあり、それ以来身バレが怖い草鞠。
「うん！　コロンちゃん！　可愛くて大好きなんだ～！」
「へ～……どういう所が？」
身バレは怖いが、評判は気になる。これは人間の当然の心理であるに違いない。
それに可愛いと言われて満更でもない気持ちになるのも致し方ないだろう。
「えっと、まず喋り方が可愛いよね！　次は……知らないゲームを楽しそうにやる所！」
女子生徒からつらつらと配信の感想が出てくる。
生の声が聞けて嬉しい気持ちになる。やはり、配信でイジってくる人間とは違う意見が出てくるのが嬉しいところであった。
「あと、おばさんって言われて怒る所が面白い！」
「おね……そっかぁ」
「どうしたの？」
「ううん、よかったね」

（あっっっっぶね）

そんなこんなで、しっかりと癖づいてる草鞠であった。

「よ――し！　配信始めんにゃ～！」

・待ってた

・待ってない

・帰れ

「なんにゃ、お前ら……」

あいも変わらず、配信を始め毎度恒例となった視聴者からの罵倒から配信はスタートされた。

黒鞠はアイドルを目指しており、ゲームもでき可愛い猫系アイドルを目指している。

今日は歌配信をやる予定である。

「いけないたいよ～」

・選曲

・ちょっと微妙な時代の曲歌うのやめろ

・ボカロとか歌わないんですか？

・無理ゾ、早口でこのおばさんは口がついていかないゾ

・お前のババア・フェロモンで俺ゲロゲロ
「なんでにゃ、良い曲だろうが」
・いやまあ……
・そうだけど……
・お前が歌うとなぁ……
「ふざけんにゃ!!　バンドに謝れ!!」
・お前、関係ないだろ
・関係者ヅラするなおばさん
・名　曲
散々な評価である。
なので黒鞠は趣向を変えて、違う曲を選曲した。これならアイドルっぽくて可愛いだろうという見込みである。
「とぅるまいは～」
・選曲!!!
・お前、年代隠す気ないだろ!!!
・今の子でも知ってると……思いたい……
・知ってるでしょ（震え声）

「きみをちかーくでー」
・可愛い声出すのやめろよ……
・くっそ、なんでおばさんで……
・年代ぶっ刺さりソング集やめろや
・なんて曲ですか？　かわいい！
・あああああ!!!
「だれーより……ごはぁ!!　死にゃ、終わりにゃお前らも私も」
・泣いた
・枕を濡らすわ
・えっ？　えっ？
・かわいいなぁ、今の子は……
その後盛大に、コメントでも黒鞠もきしめんと叫んだのは言うまでもなかった。
配信も終了し、今回の結果を見てみる。
割と好評だったようで、配信の切り抜きも増えているようだった。
大体は何も知らない無垢な視聴者のせいではあるが、それでも黒鞠の人気に直結するだろう。
「は～、今日も地獄絵図だったなぁ……」

タバコを吸って吐き、草鞠は落ち着く。
そして、ＰＣの溜まっているメールを流し読みしていた。
カーソルを下に動かし、とあるメールが目につく。
それは、企業からのコラボの誘いであった。